

令和3年度入学者選抜試験 出題の意図および評価のポイント

秋田公立美術大学の入学者受け入れ方針を踏まえたうえで、以下のとおり出題した。

○鉛筆デッサン

「出題の意図」

空間、構図、質感などの基本的な描写力を問うとともに、与えられたモチーフに普段からどのように接し、観察し、表現できるかを問うことが出題のねらいである。

「評価のポイント」

- ・ 出題の意図を理解し、異質なモチーフの組み合わせや配置による構図など、画面全体の構成力を評価した。
- ・ 位置関係やパースペクティブなど、自然な空間の観察力とモチーフの形態や質感を描写する力を評価した。
- ・ 画面全体に配慮したバランス感覚や、質的密度を高める描写とそれに伴う集中力を評価した。

○着彩表現

「出題の意図」

出題されたモチーフそれぞれの質感、形態、色彩を適切に描写すること、また、個々のモチーフのリアリティ（現実感）を損なうことなく造形性や象徴性を活用した独自の世界観を表現する能力を問うことが出題のねらいである。

「評価のポイント」

- ・ モチーフの特徴を踏まえながら背景との関係を考え、画面全体を空間として捉える構成力を評価した。
- ・ モチーフそれぞれの質感や、細部と全体の関係を描き分ける観察力を評価した。
- ・ 水彩絵の具の扱いも含めた、総合的な着彩の描画力を評価した。

○色彩表現

「出題の意図」

与えられたモチーフの特徴を捉え、色彩で表現するデッサン力、独創性や発想力、モチーフを効果的に決められた画面上に構成するための色彩構成力を問うことが出題のねらいである。

「評価のポイント」

- ・ 出題内容を理解し、与えられたモチーフがどのように表現されているかを評価した。
- ・ 色彩の対比や調和など、基本的な色彩構成力を評価した。
- ・ 自身のアイデアや制作意図が、効果的に表現されているかを評価した。

○立体表現

「出題の意図」

与えられた素材の特徴（大きさ、形、分量）を把握し、独自のイメージを立体として再構成し造形する能力と、その造形を言語化する能力を問うことが出題のねらいである。

「評価のポイント」

- ・モチーフの特徴を踏まえ、空間や形態をどのような視点で再構成しているかを評価した。
- ・モチーフの扱いや加工などの造形力を評価した。
- ・制作意図と解答との整合性を評価した。

○小論文

「出題の意図」

デジタル化とグローバル化が進む現代の社会が直面する問題を的確にとらえる能力を問うとともに、その問題の解決にあたって美術・工芸・デザインなどの芸術が直接的または間接的に果たす役割を独自の主張をもって明らかにする能力を問うことが出題のねらいである。

「評価のポイント」

- ・美術・工芸・デザインの分野に関して強い関心があるか、またこれらの分野について基本的な知識を有しているかを評価した。
- ・出題の内容を適切に理解し、発想力や企画力、問題解決能力をもって論述しているかを評価した。
- ・誤字、脱字などを含めた文章作成の基礎力と、論述の際に用語を適切に使用しているかを評価した。